

マークシート解答方式による新形式の問題集



マークシート

国語

新学習指導要領・移行措置対策済

★ 答え合わせは正答マスクによる透過式判定

★ 高校入試・学力診断

★ コンピューター採点により学習指導をする診断テスト付き

駿々堂

④ 学力診断テストの解答用紙（カード）の送り方は64ページにのせてあります。

ゆずり葉

河井 醉茗

子供たちよ。

これは譲り葉の木です。

この譲り葉は

新しい葉ができる

入れ代わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉

こんなに大きい葉でも

新しい葉ができると無造作に落ちる

新しい葉にいのちを譲って――。

子供たちよ

お前たちは何を欲しがらないでも

すべてのものがお前たちに譲られるのです。

太陽のまわるかぎり

譲られるものは絶えません。

輝ける大都會も

そっくりお前たちが譲り受けるのです。

読みきれないほどの書物も

みんなお前たちの手に受取るのです。

幸福なる子供たちよ

お前たちの手はまだ小さいけれど――。

世のお父さん、お母さんたちは

何一つ持ってゆかない。

みんなお前たちに譲ってゆくために

いのちあるもの、よいもの、美しいものを、一生懸命に造っています。

今、お前たちは気がつかないけれど

ひとりてにいのちは延びる。

鳥のようにうたい、花のように笑っている間に

気がついてきます。

そしたら子供たちよ。

もう一度譲り葉の木の下に立つて

譲り葉を見る時が来るでしょう。

1 文字とじとび

●マークテスト 1

↓答えはすべて答えの
らんマークしよう

1 次の——線部の意味として最も適切なものを、①～④から一つ選べ。

問1 彼の態度はぎょうぎょうしいもの変わった。

- ① おうへいな ② しらじらしい
③ おおげさな ④ ふてぶてしい

問2 町はやけに寂しい。

- ① なんとなく ② しんみりと
③ くらく ④ ひどく

問3 わたしは所在なさに黙ったまま、絵をながめ続けていた。

- ① 手出しが出来ないので ② むしゃくしゃする
③ たいくつであるので ④ すわるところがないので

問4 快く空の晴れ渡った小春びりの一日だった。

- ① 雲一つなく晴れた日 ② 春先の暖かく晴れた日
③ 初冬の暖かく晴れた日 ④ 五月の暖かく晴れた日

問5 わたしも生活のある一つの岐路に立って、疑い迷っていた時だった。

- ① せまいみち ② わかれみち
③ あぶないみち ④ ひろいみち

① 大部分の漢字は会意・形声文字であるから、部首に注意して一字一字の漢字の意味と点画を確実に理解していくことが重要。② 同音異字の出題が多く取り上げられており、文の意味にあうように選ばなければならない。③ 敬語表現は、だれがだれのことを表しているのかをとらえ、尊敬語と謙譲語を明確にする必要がある。④ 漢語の構成、四字熟語・故事成語・ことわざ・慣用句の意味などにも注意。

2 次の格言やことわざの内容に最も近いと思われるものを一つ選べ。

問6 藪から棒

- ① 苦難 ② 思惑 ③ 臆病 ④ 突然

問7 石橋をたたいて渡る

- ① 慎重 ② 思惑 ③ 必然 ④ 臆測

問8 花より団子

- ① 娯楽 ② 実質的 ③ 風情 ④ 蒐集

問9 身から出たさび

- ① 汚染源 ② 自業自得 ③ 期待外れ ④ 解毒作用

問10 負うた子に浅瀬を教えられる

- ① 思惑 ② 苦難 ③ 迂闊 ④ 親切

問11 石の上にも三年

- ① 安定 ② 無理 ③ 熱中 ④ 忍耐

●マークしよう

1	問1	① ② ③ ④
	問2	① ② ③ ④
	問3	① ② ③ ④
	問4	① ② ③ ④
	問5	① ② ③ ④
2	問6	① ② ③ ④
	問7	① ② ③ ④
	問8	① ② ③ ④
	問9	① ② ③ ④
	問10	① ② ③ ④
	問11	① ② ③ ④
評価		(正答数) 10～11 9 8～9 7 5～7 4 3～5 2 1

マークテスト 2

↓答えはすべて答えの
らんじ「マークしよう」

1 次の漢字について、漢和辞典の部首索引を使って調べたい。それぞれの漢字を調べるのに適当な部首と画数を、あとにあげるものの中から一つ選べ。

問1 禍 問2 庶

問3 恒

①「がんだれ」の七画

②「まだれ」の七画

③「まだれ」の八画

④「りっしんべん」の六画

⑤「こざとへん」の六画

⑥「こざとへん」の七画

⑦「しめすへん」の九画

⑧「ころもへん」の九画

2 次の——線部の漢字として正しいものを()の中から選べ。

問4 成長のカテイを觀察する。

(1) 課程 (2) 過程 (3) 仮定 (4) 家庭

問5 先人のコウセキを賛える。

(1) 巧績 (2) 効責 (3) 功積 (4) 功績

問6 多数の人々のシジを得る。

(1) 支持 (2) 指示 (3) 私事 (4) 師事

問7 権利をホウキする。

(1) 法規 (2) 芳紀 (3) 放棄 (4) 峰起

問8 相手をヒナンする。

(1) 非難 (2) 比難 (3) 否難 (4) 避難

●マークしよう

1	問1	1 2 3 4 5 6 7 8
	問2	1 2 3 4 5 6 7 8
	問3	1 2 3 4 5 6 7 8
2	問4	1 2 3 4
	問5	1 2 3 4
	問6	1 2 3 4
	問7	1 2 3 4
	問8	1 2 3 4
3	問9	1 2 3 4 5 6 7 8
	問10	1 2 3 4 5 6 7 8
	問11	1 2 3 4 5 6 7 8
	問12	1 2 3 4 5 6 7 8
	問13	1 2 3 4 5 6 7 8
	問14	1 2 3 4
4	問15	1 2 3 4
	問16	1 2 3 4
	問17	1 2 3 4
	問18	1 2 3 4
評価		(正答数) 15～17 12～14 7～11 4～6 0～3

3 あとの各組の□に対立する意味の漢字を入れ、さらに()にも漢字を入れて、()—□、□—()がそれぞれ熟語になるようにしたい。(例)のようになる漢字を次の①～⑧の中から選べ。

(例) 天・地・実

(実)—地

天—(気)

①軽 ②好 ③順 ④量 ⑤開 ⑥重 ⑦閉 ⑧逆

(反)—問9 □

(自)—問11 □

問10 □—(調)

問12 □—問13 ()

4 次の各組の熟語の中で、それぞれ上にあげた文字の読み方として一つだけ異なるものがある。その熟語を一つ選べ。

問14 遠 (1) 遠方 (2) 高遠 (3) 遠足 (4) 久遠

問15 重 (1) 重要 (2) 重体 (3) 慎重 (4) 重厚

問16 納 (1) 出納 (2) 納税 (3) 未納 (4) 納品

問17 仮 (1) 仮定 (2) 仮装 (3) 仮病 (4) 仮説

●マークテスト 3

↓ 答えはすべて答えの
うたにマークしよう

1 次の熟語と同じ構成（組み立て）になっている熟語を、あとにあげるものの中から選べ。

問1 公私 （反対の意味をもつ語を重ねたもの）

- ① 国営 ② 帰宅 ③ 往復 ④ 無限

問2 名曲 （上の語が下の語を修飾するもの）

- ① 第二 ② 湿気 ③ 県立 ④ 永久

問3 温暖 （意味の似た語を重ねたもの）

- ① 深淺 ② 晩秋 ③ 室内 ④ 憂愁

問4 読書 （動詞の下に目的語がくるもの）

- ① 新人 ② 退職 ③ 近日 ④ 冷水

問5 不減 （上に打ち消しの語がついたもの）

- ① 非常 ② 素足 ③ 安否 ④ 諸兄

問6 腹痛 （主語と述語の関係にあるもの）

- ① 実行 ② 閉会 ③ 日没 ④ 暴投

2 次の熟語の構成についての説明に当たるものを、あとにあげるものの中から一つずつ選べ。

問7 納税 問8 救助 問9 愛憎 問10 全力

- ① 同じような意味の字を重ねている。
② 下の字が上の字の目的語になっている
③ 反対の意味の字を重ねている
④ 上の字が下の字を修飾している

3 次の四字熟語のカタカナ部分の漢字として正しいものを、あとにあげるものの中から選べ。

問11 意味シンチョウ

- ① 伸長 ② 慎重 ③ 深重 ④ 深長

問12 イク同音

- ① 異口 ② 移句 ③ 異句 ④ 違口

問13 タントウ直入

- ① 担当 ② 単刀 ③ 反当 ④ 短刀

問14 危機イツパツ

- ① 一伐 ② 一髪 ③ 一発 ④ 一抜

問15 カンゼン懲悪

- ① 完全 ② 敢然 ③ 勧善 ④ 観戦

4 次の熟語の読み方は、音と訓がどのように組み合わされているか。あとにあげるものの中から一つずつ選べ。

問16 出立 問17 住宅 問18 身分 問19 縁組

- ① 音読み（「音」の結びつき）

- ② 訓読み（「訓」の結びつき）

- ③ 重箱読み（「音」の結びつき）

- ④ 湯桶読み（「訓」の結びつき）

●マークしよう

1	問1	① ② ③ ④
	問2	① ② ③ ④
	問3	① ② ③ ④
	問4	① ② ③ ④
	問5	① ② ③ ④
	問6	① ② ③ ④
2	問7	① ② ③ ④
	問8	① ② ③ ④
	問9	① ② ③ ④
	問10	① ② ③ ④
3	問11	① ② ③ ④
	問12	① ② ③ ④
	問13	① ② ③ ④
	問14	① ② ③ ④
	問15	① ② ③ ④
4	問16	① ② ③ ④
	問17	① ② ③ ④
	問18	① ② ③ ④
	問19	① ② ③ ④
評 価		(正答数)
		5 4 3 2 1
		17 ~ 19
		13 ~ 16
		9 ~ 12
		5 ~ 8
		0 ~ 4

マークテスト 4

↓答えはすべて答えの
らんじマークしよう

1 次の意味を表す熟語として正しいものを、あとにあげるものの中から選べ。

問1 たちなおること

- ① 更生 ② 公正 ③ 厚生 ④ 校正

問2 うたがわしいこと

- ① 不振 ② 不信 ③ 不審 ④ 普請

問3 氣にしていること

- ① 回診 ② 改心 ③ 改新 ④ 会心

問4 芸術作品などのうつくしさを深く味わうこと

- ① 鑑賞 ② 観賞 ③ 観照 ④ 感傷

問5 制限をはずして、自由にすること。

- ① 快方 ② 解放 ③ 開放 ④ 快報

2 次は、訪問客と、応対に出た中学生との間にかわされた会話である。敬語の使い方に注意して、あとの問いに答えよ。

訪問客 「ごめんください。」

中学生 「はい。」

訪問客 「私はこの前お電話したお父さんの古い友だちですが、お父さん、いらっしやいますか？」

中学生 「あのう、急用で出かけていて、いらっしやいませんが……。」

訪問客 「そうですか……。困ったなあ。いつごろお帰りになるか、わかりませんか？」

中学生 「すぐお帰りになると思います。お客さんがあるからすぐも

どると言っていましたから。」

訪問客 「あ、そうですか。それじゃあ……。お母さんはいらっしやいますか？」

中学生 「はい。お母さんは裏にいますからいま呼んできます。ちょっと、お待ちしてください。」

問 中学生のことばのうち、——線(ア)・(イ)・(ウ)は、敬語の使い方が不適当である。適当な言い方は何か。それぞれについて、次の①～③の中から最も適当な言い方を一つずつ選べ。

問6 (ア) ① 急用で出かけていて、おいでになりませんが……。 ② 急用で出かけていて、おりませんが……。 ③ 急用でお出かけになっていて、おりませんが……。

問7 (イ) ① お帰りくださる ② 帰る ③ 帰られる

問8 (ウ) ① お待ちになってください。 ② お待ちもうしあげてください。 ③ 待っていてください。

問9 「お母さん」は、この場面にのぞましくない言い方である。次にあげるものの中から最もものぞましい言い方を選べ。

- ① お母さま ② 母さん ③ お母ちゃん ④ 母

●マークしよう	
1	問1 ① ② ③ ④ 問2 ① ② ③ ④ 問3 ① ② ③ ④ 問4 ① ② ③ ④ 問5 ① ② ③ ④
2	問6 ① ② ③ 問7 ① ② ③ 問8 ① ② ③ 問9 ① ② ③ ④
評価	(正答数) 9 ～ 8 7 ～ 6 5 ～ 4 3 ～ 3 2 ～ 2

2 じじいのきもち

要点

●マークテスト 1

↓答えはすべて答えの
らんマークしよう

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

河風の温^①つ^②ぽさが次第に強く感じられて浴衣^③の肌がいやにうすら寒く
なった。月はやがて人の起きているころにはもう昇^④らなくなつた。空に
は朝も昼過ぎも夕方も、いつでも雲が多くなった。雲は重なり合つて絶
えず動いているので、時としてはわずかにその間々にことさららしく色
の濃い青空の残りを見せておきながら、空一面におおいかぶさる。する
と気候はおそろしく蒸し暑^⑤くなつてきて、自然としみ出る脂汗^⑥が不愉快
に人肌をねばねばさせるが、しかしまた、そういう時にはきまつて、その
強弱とその方向の定まらない風が突然に吹き起こつて、雨もまた降り続
くことがある。この風やこの雨には一種特別の底深い力が含まれていて、
寺の樹木や、河岸^⑦の葦^⑧や、場末に続く貧しい家の板屋根^⑨に、春や夏には
決して聞かれない音響を伝える。

問1 くく線のうちから活用のある語を二つ選べ。

- ① 湿っぽさ ② 次第に ③ うすら寒く ④ なつ

問2 線(1)「おおいかぶさる」の主語はどれか。次の中から選べ。

- ① 空一面に ② 雲は ③ 時としては ④ 残りを

問3 線(2)「しみ出る」(動詞と動詞の組み合わせでできた複合

① 文と文節の働き、文節と単語の関係について考え、文節・単語のくぎりはつき
りととらえる。 ② 単語を、性質や働き(活用の有無・単独で構成できる文の成分)
によって品詞分類ができるように理解を深めよう。 ③ まぎらわしい品詞を見分け
るには、前後のことばに注意し、ことばの一部か、それで一語か、二語かをまずし
つかりさせたらうえて考えることが大切。 ④ 「助動詞と助詞」の働きと意味を理解しておく。

語)と組み合わせが同じ複合語はどれか。次の中から一つ選べ。

- ① 昼過ぎ ② 蒸し暑く ③ 降り続く ④ 底深い

問4 線(3)「また」と同じ用法のものを次の中から一つ選べ。

- ① またの日に來ます。 ② Aも來たし、またBも來た。

- ③ いずれまた來ます。 ④ 一度家に帰つて、また來た。

問5 線(4)「板屋根に」と対等(並立)の関係にあるものは次の

中のどの文節か、二つ選べ。

- ① 樹木や ② 葦や ③ 場末に ④ 貧しい家の

2 次の各文の()にあてはまる適当なことばを、あとから選べ。

問6 自立語で活用のあるものをまとめて()という。

問7 形容詞の終止形と()形は形が同じである。

問8 副詞は自立語で活用がなく主として()修飾する単語である。

- ① 体言 ② 用言 ③ 連用 ④ 連体

●マークしよう

1	問1	① ② ③ ④
	問2	① ② ③ ④
	問3	① ② ③ ④
	問4	① ② ③ ④
	問5	① ② ③ ④
2	問6	① ② ③ ④
	問7	① ② ③ ④
	問8	① ② ③ ④
評価	(正答数)	
	5	7
	4	5
	3	3
	2	1
	1	0

●マークテスト 2

↓ 答えはすべて答えの
らんマークしよう

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

A 「お荷物をお持ちしましょう。」

と言われ^①て、その好意を謝絶するの^②に、

「いいえ、お荷物をお持ちするなんて、とんでもない。」

と言つたら、聞く人は、変な人だと思^③うだろう。普通に日本語が使える人なら、もちろんこんな言い方はせず、

「いいえ、荷物をもつていただくなんて、とんでもない。」

のようにでも言うだろう。

問1 会話文Aに用いられている敬語の種類について、正しく説明しているものを次の中から選べ。

① 尊敬語・謙讓語があつて、丁寧語がない。

② 尊敬語・丁寧語があつて、謙讓語がない。

③ 謙讓語・丁寧語があつて、尊敬語がない。

④ 尊敬語・謙讓語・丁寧語ともにある。

問2 線(1)の意味を次の中から選べ。

① 尊敬 ② 自発 ③ 可能 ④ 受身

問3 線(2)は本文中の〰〰〰線のうちのどの部分にかかるか。次の中から選べ。

① とんでもない ② 言つたら ③ 変な人だ ④ 思うだろう

問4 線(3)と、文節相互の関係が全く同じものを、次の中から一つ選べ。

① あんなに 美しい 花は ない。

② そんな 危ない 橋は 渡れない。

③ 今でも あの ことは 忘れない。
④ まだ 暖かい 春は 訪れない。

2 次の各問いの 線①④の語の中から、それぞれ一つだけ品詞の違うものを選べ。

問5 京都と奈良を旅行し、しかも九州にも足をのぼそうと考えたけれども、汽車^③また汽車の長旅を思い、それゆえあきらめた。

問6 古い友人とひきびきに出あつた。彼の風体は昔とかわり、たいそう肥満していた。昔はもつと細身で、やや病弱な感じであつた。

問7 花がきれいに咲き、^②なだらかに続く丘を越えると、海は非常に穏やかであつた。

問8 君は五時間続けて走れますか。

問9 通行禁止だからここからは出れません。

問10 起きなければもうしばらく寝ていなさい。

3 次の文のうち文法に合つたものであれば①、合わないものには②の番号で答えよ。

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

●マークしよう	
1	問1 ①②③④ 問2 ①②③④ 問3 ①②③④ 問4 ①②③④
2	問5 ①②③④ 問6 ①②③④ 問7 ①②③④
3	問8 ①② 問9 ①② 問10 ①②
評価	(正答数) 9 ~ 10 7 ~ 8 4 ~ 6 2 ~ 3 0 ~ 1

●マークテスト 3

↓ 答えはすべて答えの
らんマークしよう

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

今もそれ(2)に変わりは(3)ないし、その幸福を感じる能力を失(1)つては、私に人の不幸を感じることもなくなるだろう。けれど今はその幸福の肉感がひとつの相対的なものとして感じられる。答えは何ひとつ出(7)ていなくて、かすかな(4)い立ちといわれ(5)のない希望は、やはり私を(6)息苦しくさせるのだが、五月に出会(4)うたび、私が五月によって年輪の或る部分を加え得(7)ているということもまた、私には信じ(8)られる。

問1 線(1)の文法的説明として最も適当なものを次の中から選べ。

- ① 主語 ② 述語 ③ 連体修飾語 ④ 連用修飾語

問2 線(2)の文法的説明として最も適当なものを次の中から選べ。

- ① 主語 ② 述語 ③ 連体修飾語 ④ 連用修飾語

問3 線(3)の文法的説明として最も適当なものを次の中から選べ。

- ① 主語 ② 述語 ③ 連体修飾語 ④ 連用修飾語

問4 線(4)の語の品詞名を次の中から選べ。

- ① 形容詞 ② 形容動詞 ③ 副詞 ④ 連体詞

問5 線(5)の語の品詞名を次の中から選べ。

- ① 動詞 ② 名詞 ③ 副詞 ④ 連体詞

問6 線(6)の語の品詞名を次の中から選べ。

- ① 形容詞 ② 連体詞 ③ 助動詞 ④ 助詞

問7 線(7)の語の品詞の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 助動詞 ② 動詞と助動詞 ③ 名詞と助動詞 ④ 動詞と接尾語

問8 線(8)の語の品詞名を次の中から選べ。

- ① 名詞 ② 接続詞 ③ 副詞 ④ 感動詞

問9 線(9)の語と同じ文法的意味に用いられているものを次の中から選べ。

- ① 眠ろうとしても寝られない。
- ② 伯父の身の上が案じられる。
- ③ かくしていたものを弟に見つけられた。
- ④ 新しい先生が来られた。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

関根正二は、死の直前に「三星」という作品を残した。

三星というのは、オリオン座の中心をなす三つの星のことで「三大星」さま(1)呼ばれ、関根の故郷では「三大師さま」(2)拜まっていた。

問10 (1)にはいる最も適当な語を次の中から選べ。

- ① と ② とも ③ として ④ が

問11 (2)にはいる最も適当な語を次の中から選べ。

- ① と ② とも ③ として ④ が

●マークしよう

1	問1	① ② ③ ④
	問2	① ② ③ ④
	問3	① ② ③ ④
	問4	① ② ③ ④
	問5	① ② ③ ④
	問6	① ② ③ ④
	問7	① ② ③ ④
	問8	① ② ③ ④
	問9	① ② ③ ④
2	問10	① ② ③ ④
	問11	① ② ③ ④

評価 (正答数)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

マークテスト 4

↓答えはすべて答えの
らんじマークしよう

1 次の各問いの短文の——線の部分の語が、あとの①～④の中にある。

同じ使い方のものを一つ選べ。

問1 もう、春の気配が感じられる。

- ① 先生が教えられる。 ② 私はなんでも食べられる。

- ③ 人に助けられる。 ④ 母のことが案じられる。

問2 この本は安くない。

- ① こんなものは食べられない。 ② 彼はまだ来ない。

- ③ ノートもペンもない。 ④ 実に少ない予算だ。

問3 あんな変な人は見たこともない。

- ① 明日は臨休なのです。 ② 静かなところがよい。

- ③ 人生は旅のようなものだ。 ④ あれが最も高そうな山だ。

問4 あれが私たちの学校だ。

- ① 彼女は健康だ。 ② はじめて泳いだ。

- ③ 今夜は降りそう。 ④ これは姉のだ。

問5 彼の書いた紀行文はユニークだ。

- ① 雨の降る道を急ぐ。 ② 会議で話すのはむずかしい。

- ③ 朝の空気はさわやかだ。 ④ まだ学校へ行かないの。

2 次の各問いの文にはそれぞれどんな欠点があるか。あとにあげるものの中から最も適当なものを一つずつ選べ。

問6 早くしゃべらないで寝なさい。

問7 私の夏休みの計画は広いきれいな海で思いきり泳ぎたいと思う。

問8 英語の問題点をとらえた記事と英語の学習方法とを指導するの

が、この雑誌の特色です。

- ① 主語と述語の関係が乱れているので、文としておかしい。

- ② 修飾することばの位置が適当でないで、文としておかしい。

- ③ むりな並立の関係になっているので、文としておかしい。

- ④ 主語が省略され、打ち消しのことばが二つあるので、文として

おかしい。

3 次の各問いの——線の語の文法的説明として最も適当なものを、あ

とにあげるものの中から一つ選べ。

問9 最初から食べてしまうつもりで取ったのではない。

- ① 助詞 ② 助詞の一部 ③ 助動詞 ④ 助動詞の一部

問10 四郎にとっては、相手は正三ではなく、大蛇なのである。

- ① 形容動詞の活用語尾 ② 助詞 ③ 連体詞の一部

④ 助動詞

問11 身体を締めているのは、大きな、丸太ん棒のような蛇なのだ。

- ① 形容詞の一部 ② 連体詞の一部 ③ 形容動詞の一部

④ 助動詞

マークしよう

1	問1	① ② ③ ④
	問2	① ② ③ ④
	問3	① ② ③ ④
	問4	① ② ③ ④
	問5	① ② ③ ④
2	問6	① ② ③ ④
	問7	① ② ③ ④
	問8	① ② ③ ④
3	問9	① ② ③ ④
	問10	① ② ③ ④
	問11	① ② ③ ④
評価		(正答数) 10～11 8～9 5～7 3～4 0～2

空の「湯の岳」の山嶺を眺めているなど想像する。小さいからだに重すぎるリカと重なった影ぼうしが、山畑の上にひきずるような長い尾を引いている夕景色を思い描く。彼の眼の中には、口にはいえぬ二粒の水玉が、まるくまっかつかにきらめいているのではないかと続けて思う。とりも直さず重いカセを解き放される自由の日暮れを待ちわびているのかもしれない。たまらなくなつて、私は畑にすわつて乳房を出しながら大声で呼びたてる。リカが暑さにげんなりして膝の上で乳房にすがると、彼は脱兎のようにわがやの方へ逃げてゆく。(吉野せい「涙をたらした神」より)

問1 線①～④の「で」の中から、助詞でないものを一つ選べ。

問2 線A「かつこうな」の意味として、最もよいものを次の中から一つ選べ。

- ① ひどく場違いな ② じやまが入らぬ

- ③ ていさいのよい ④ あつらえむきの

問3 線B「放胆で」の説明として、最もよいものを次の中から一つ選べ。

- ① 大まかで気にかけないさま ② めちゃくちゃで乱暴なさま

- ③ 思いきりよく恐れないさま ④ でたらめで投げやりなさま

問4 線①～④の中で、絵画的で、幻想的な表現になっているのはどれか、一つ選べ。

問5 線C「親たちの険しい圈内にはいつて来ない」とあるが、「はいって来ない」のはなぜか。その理由として最もよいものを次の中から一つ選べ。

- ① 厳格な親たちのそばへは近づきたくないから。

- ② いそがしい親たちに近寄りがたく感じるから。

- ③ 親たちの働く仕事場が危険であると思うから。

- ④ 仕事に厳しくて親たちが不機嫌な様子だから。

問6 ノボルの心情をおしはかつて痛切な思いにかられる「私」の心を状態を率直に表現しているところを、次の中から一つ選べ。

- ① 待ちわびている ② 口にはいえぬ ③ たまらなくなつて

問7 ノボルはどのような少年として描かれているか。次の中から最もよいものを選べ。

- ① いかなる苦境にもめげず、いつも明るく振る舞おうとする快活な少年として

- ② 幼いながらも、自分のおかれている境遇にがまん強く耐えている少年として

- ③ 人一倍妹思いで、また母や姉をこのうえなく慕う心根のやさしい少年として

問8 本文の特色を最もよく表しているものを、次の中から一つ選べ。

- ① 開懸地の子供たちの姿と苦しい生活の中でノボルを思う母の愛情とが、リズム感のある巧みな文章で生き生きと表現されている。

- ② 子供たちの様子との親の労働の姿が、平明な文章で対照的に表現されている。

- ③ 子供たちの遊び・子もりのノボル・母の思いやりなどを通して開懸地の生活が、客観的な文章で正確に表現されている。

●マークしよう

問1	① ② ③ ④
問2	① ② ③ ④
問3	① ② ③ ④
問4	① ② ③ ④
問5	① ② ③ ④
問6	① ② ③
問7	① ② ③
問8	① ② ③
評価	(正答数) 8 7 6 5 4 4 3 3 2 2 1 1 0 0

マークテスト 2

↓答えはすべて答えの
らんじマークしよう

■ 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

中はどうひいき目にみても、四分の入りである。女の子を連れなおじいさん、学校をさばっているらしい小学生、若い男たち、和服の首にナイロンのスカーフをまきつけたおかみさん、といった顔ぶれである。ベレーをかぶった絵かきらしいしゃれた身なりの男もいないではない。

この「かたばみ頭巾」というのはテレビで大当たりをとったものなのだが、教授は話の筋はよくわからない。いやわからないことはないのだが、芝居を見ているよりも、隣の若い男が、手にもった風呂敷包みを開けて握り飯を食べだしたほうに気をとられていた。かたばみ模様を散らした覆面の武士が、ばったばったと人を斬り殺す度に、彼はかじりかけの握り飯を手にしたまま、茫然と舞台のほうを眺めていた。

何回か切り合いの場面があつたので、その度に教授は熱心に舞台の上を探したが、どれが秋穂か「」をつかむことは出来なかつた。「とにかくテレビなんかだつて、多い時は、三十分のドラマで五回ぐらい斬られるんですからね」という秋穂の言葉の率から推定すれば、もう何度か彼は舞台の上で殺られているはずである。その度に似たのは見つけたが、必ず秋穂に違いないという特徴は認め難い。

「おのこやもむなしかるべき万世に語りつぐべき名はたてずして」という歌を越は思い出していた。少々恥ずかしい思いもなかったが、彼はこの歌が好きなのであつた。その気概、その誇らしさが越源一郎のこの世で最も理解しやすい情緒であり夢であつた。しかし息子はおのこではなかつた。彼は男であつた。彼はいつそう深く椅子に身を埋めて、雨傘の柄を握りしめていた。

その時、舞台はかたばみ頭巾の大見栄で幕になった。やれやれどうやら終わるらしい。越が体をのばした時である。まだ暗い場内の、人もまばらな二階席に、ぱつとスポット・ライトがあてられた。つい十秒ほど前に舞台にいたかたばみ頭巾が二階席の左翼の手すりにゆうゆうと片足をかけてかまえていた。吹きかえに違いはないのだが、かたばみ頭巾がいかに神出鬼没のように見えて子供たちは黄色い声をあげて喜んだ。

すると二階のかたばみ頭巾は、ヤッ！ と気合をかけると、手すりを越えて、ひらりと花道にとびおりた。あとは一目散に花道を楽屋へ。その姿が消えたと思うや、スポットは再び、今度は右翼の照明ボックスに現れたかたばみ頭巾をうつし出した。この再度にわたる替玉のトリックはしかし大受けに受けた。照明ボックスのかたばみ頭巾は、またもや、「ヤッ！」と声をかけ、そのとたんに、ライトは消えてかたばみ頭巾の姿も見えなくなつた。

二階からとび下りたのが秋穂で照明ボックスにいたのは、酒匂基次に違いなかつた。そういえば秋穂が、二人ともかたばみ頭巾になるのだ、といっていたのを教授は思い出した。教授はテレビなどみたことがなかつたので、二人は何か同じ主義主張をもったさむらいのグループになるのだとばかり、早のみこみしていた。しかし二人は主役の尾上なんとかが扮するかたばみ頭巾の影武者なのであつた。世の中で、自分しか出来ないという技術と仕事をもて、とねがった教授に対する、それが息子の答えであつた。

教授はいつそう烈しい降りになった戸外へ力なく出て行つた。

「何とか生きては行くだらう。息子らも」彼はつぶやいた。

問1 線⑦の意味を、次の中から選べ。

- ① 神様が出たり鬼が隠れたりして、その正体がかめないこと。

- ② 神様が鬼かが現れたり隠れたりして、めまぐるしいこと。
 ③ 鬼神のように現れたり隠れたりして、所在のつかめないこと。
 ④ 鬼神が現れたり隠れたりして、恐怖におののくこと。

問2 線①の意味を、次の中から選べ。

- ① 受けとり方が早かった。 ② 大成功であった。
 ③ お金や品物をたくさんもらった。 ④ 大変好評を得た。

問3 「」にはいる適当な語を、次の中から選べ。

- ① 状況 ② 証拠 ③ 様子 ④ 確証

問4 線Aはどうしてか。次の中から最もよいものを選べ。

- ① 舞台のつくりがすばらしかったから。
 ② 舞台の演技にひきこまれたから。
 ③ 舞台の様子が恐ろしかったから。
 ④ 舞台に秋穂が現れたから。

問5 線Bはどういうことか。次の中から最もよいものを選べ。

- ① 自分の息子のように思われなかったということ。
 ② 自分の考えているにまさる男ではなかったということ。
 ③ 自分の考えているような男らしい男ではなかったということ。
 ④ 自分の考えているに劣らない男ではなかったということ。

問6 線Cはどうしてか。次の中から最もよいものを選べ。

- ① 雨が烈しく降っていて、うっとうしかったから。
 ② 芝居が思ったほど面白いものでなかったから。
 ③ 自分が年老いてしまったから。
 ④ 息子が自分の思ったような仕事についていなかったから。

問7 線Dから、「彼」のどんな気持ちかわかるか。次の中から最もよいものを選べ。

- ① 自分の期待通りにならなかったことを嘆きつつも、息子の将来に期待を棄ててはいない。

- ② 自分の期待通りにならなかったことを嘆き、息子にがっかりしている。

- ③ 自分の期待通りにはならなかったが、内心は安心し、息子がやりがいのある仕事についていることを認めている。

問8 「」a～dにあてはまる「ア」「イ」の文をどのように組み合わせればよいか。あとにあげる組み合わせの中から最もよいものを選べ。

「ア」 越はのろろと立ち上がった。

「イ」 彼は背をかがめ、水たまりを避けて歩き続けた。

「ウ」 越は舞台を心にとめてはいなかった。

「エ」 彼の心はどうにも慰められようがなかった。

- ① aイ bウ cア dエ
 ② aア bイ cウ dエ
 ③ aウ bア cエ dア

マークしよう

問1	① ② ③ ④
問2	① ② ③ ④
問3	① ② ③ ④
問4	① ② ③ ④
問5	① ② ③ ④
問6	① ② ③ ④
問7	① ② ③
問8	① ② ③ ④

評価

(正答数)

8 7
6 5
4 3
2 3
0 1

●マークテスト 3

↓答えはすべて答えの
らんじにマークしよう

■ 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

三人はまたトロッコに乗った。車は海を右にしながら、雑木の枝の下を走った。しかし良平はさっきのように、面白い気持ちにはなれなかった。「もう帰ってくればよい」——彼はそうも念じてみた。が、行く所まで行きつかなければ、トロッコも彼らも帰れないことはもちろん彼にはわかり切っていた。

その次に車の止まったのは、切り崩した山を背負っている、わら屋根の茶店の前だった。二人の土工はその店へはいると、乳飲み子をおぶったかみさんを相手に悠々と茶などを飲み始めた。少時の後茶店を出て来しなに、煙草を耳にはさんだ男は、トロッコのそばにいる良平に新聞紙に包んだ駄菓子^{だかし}をくれた。良平は冷淡に「ありがとう」と言った。が、すぐに、冷淡にしては相手にすまないと思ひ直した。彼はその冷淡さを取り繕うように、包み菓子の一つを口へ入れた。菓子には新聞紙にあつたらしい、石油の臭^{におい}がしみついていた。

三人はトロッコを押しながらゆるい傾斜を登っていった。良平は車に手をかけていても、ほかの^Bことを考えていた。坂を向こうへ下り切るとまた同じような茶店があつた。土工たちがその中へはいった後、良平はトロッコに腰をかけながら、帰ることばかり気にしていた。茶店の前には花の咲いた梅に西日の光が消えかかっている。「……………」——彼はそう考えると^A腰かけてもいられなかった。トロッコの車輪をけつてみたり、一人では動かないのを承知しながら押してみたり、——そんなことに気持ち^Cを紛らせていた。

ところが土工たちは出てくると、車の上に手をかけながら、無造作に

彼にこう言った。

「われはもう帰んな。おれたちは今日は向こう泊まりだから。」

「あんまり帰りが遅くなるとわれの家でも心配するぞら。」

良平は一瞬あつけに取られた。もう^D^I暗くなること、去年の暮れ母と岩村まで来たが、今日の道はその三、四倍あること、それを今からたつた一人、歩いて帰らなければならないこと、——そういうことが一時にわかつたのである。良平はほとんど泣きそうになった。が、泣いても仕方がないと思つた。泣いてる場合ではないとも思つた。彼は二人の土工に取つて付けたようなお辞儀をしようとどどん線路伝いに走りだした。良平はしばらく無我夢中に線路のそばを走り続けた。そのうちに懷の菓子包みが、邪魔になることに気がついたから、それを道ばたへほうり出すついでに、草履もそこへ脱ぎ捨ててしまった。すると薄い足袋の裏へじかに小石が食いこんだが、足だけははるかに軽くなった。彼は左に海を感じながら、急な坂道を駆け登つた。ときどき涙がこみ上げてくると自然に顔がゆがんでくる。——それは無理に我慢しても鼻だけは絶えず^H^ウ鳴つた。

竹やぶのそばを駆け抜けると、夕焼けのした日金山^{ひがね}の空も、もう火照りが消えかかっていた。すると今度は着物までも、汗のぬれ通つたのが気になったから、やはり必死に駆け続けたなり、羽織を道ばたへ脱いで捨てた。

みかん畑へ来るころには、あたりは暗くなる一方だった。「命さえ助ければ——」良平はそう思いながら、すべつてもつまずいても走って行つた。

問1 ^A・^I・^ウに補うことばとして最適なもの、次の組み合わせの中から一組選べ。